

企画講座

伊勢国司北畠氏の歴史③

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第3回目。

今回は石水博物館所蔵の「北畠満雅御教書」を読みながら、奉者の判を主人が据えたという特異な様式の古文書について考えてみます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

日時 9月13日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢で100年以上続く老舗シリーズ 第一回 伊勢かまぼこ若松屋の歴史と未来

講師 美濃 松謙 (有)若松屋代表取締役・博士(学術)

蒲鉾は日本の食文化です。その歴史や科学的知見はあまり知られていません。魚は世界中にいるけど、蒲鉾は外国にもあるのか？なぜ魚は焼いても、煮ても柔らかいのに、蒲鉾はプリアプリしているの？そんな疑問を解いていながら、蒲鉾の魅力に迫ります。美濃松謙さんは若松屋の4代目。若松屋は伊勢の台所と言われた河崎で蒲鉾を製造し始めてから、今年で116年を迎えました。戦時中は魚を仕入れることができず、2代目は鉄工場で労働していた時期もあると聞いています。そんな苦労話を交えながら蒲鉾のあれこれのお話を伺います。ちょっぴり試食もあります。

日時 9月16日(木) 13:30~15:00 参加費 会員 1,000円 ビジター 1,500円(試食含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

神宮摂社・末社・所管社の歴史 その7 神前神社の歴史について

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

あるとき一人の神職から質問を受けました。二見方面の摂社・末社で、堅田神社や江神社の祝詞は「度会の二見に坐す」とある。しかし神前神社の祝詞は「度会の宇治に坐す」とあるのはどうしてかと。

今日では二見町松下に所在する神前神社ですが、古く松下村は度会郡宇治郷に組み込まれていたのです。意外に知られていないことですが、松下村が二見地区に転入されたのは、『二見町史』によると明治4年(1871)に至ってです。つまり現在の五十鈴川派川の左岸は古くから二見郷であり、右岸にあたる松下村はかつて宇治郷に属していたのです。それは何故でしょうか。神宮の巡回祭典で参向する権禰宜・宮掌・出仕の三人が山登りとして歩を進める難所とされているのが鴨神社と神前神社の二所であり、後者の神前神社は長い急な石段を何段も登りきらないといけません。しかし現在地に移転遷座されたのは明治40年のことで、その前は海岸屋頭に鎮座していたとされます。元の旧地はどこなのか。今回はこれらの謎について迫ります。

日時 10月5日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

「浦月香」を楽しむ

講師 東 堯霞 香道御家流三條西宗家直門師範

「しほがまのうらみなれつる夕けぶり霞の月にいかのみゆらん」
「しほがまのうら風ふるあきの月いづくは有りともいつは有りとも」 三条西実隆
かつての歌枕の地、宮城県塩竈の浦にあがる春の月と秋の月を詠んだ歌です。今回は月見をテーマに、しかも霞の月(春)と秋の月を香りで聞き当てて楽しむ組香です。まずは試香(テスト)で、春の月と秋の月の香りを聞いていただき、その香りを覚えていただいたのち、どちらかを抜いて、そこへ塩竈の香りを入れて打ち混ぜます。さて残った香りを聞き当てられるかどうか、お楽しみですよ。聞き当てた香りで、「浦月香」の証歌が決まるのです。霞の月か、秋の月か、それぞれの香りを優雅に聞き分けて、お月見を楽しみましょう。

日時 10月11日(月) 18:30~20:30 参加費 会員 5,300円 ビジター 5,800円(香道料・食事代・お菓子代含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

下駄は面白い

講師 田所 直 下駄職人・サワ 布作家

度会郡大紀町は総面積の約91%を山林が占めています。この町に三重県産の(地元産)木材を使って、今は珍しい下駄を作っている人がいます。その人の名は田所 直さん。なぜ下駄をと誰でも不思議に思います。今から8年前、自然豊かな田舎暮らしにあこがれて一家で大紀町に移住、工務店の仕事を経て、下駄職人になりました。宮川流域の照葉樹を使った下駄の台に合わせるのは、アフリカの生地を使った鼻緒。布作家である奥様のお手製です。木の風合いとカラフルさがかわいいポップなオリジナル下駄が生み出されています。今回は大紀町に移住され下駄職人になるまでの経緯や、ご苦労、この地の魅力・下駄の魅力などのお話と共に、奥様にもアフリカの生地の魅力についてお話をお伺いいたします。

日時 10月18日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

漢字の旅「月・夕・天・人」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講師 高 潤生 書道家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古いの結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは、「月・夕・天・人」。「明月 幾時より有るや、酒を把って青天に問う。…」宋代蘇東坡の「水調歌頭」は秋の明月を詠む最も有名な詞です。この美しい詞と明月にまつわる美女伝説を語りながら、詩中の文字「月・夕・天・人」のロマンと古代人の宇宙観を考えてみましょう。甲骨文字の書き方を手ほどきします(ボールペン、筆ペンでも可能です)

日時 10月19日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



桑名十万石の幕末

講師 杉本 竜 桑名市博物館館長

木曾・掛斐・長良の木曾三川の河口部にあり、伊勢湾へつながる要地・桑名は中世より交易の中心として発展したところで「十楽の津」と呼ばれていました。徳川の世になると家康の重臣本多忠勝が10万石で入り、城郭の増改築や大規模な町割りなどをおこない、桑名藩の基をつくりました。後にその子忠政が2代藩主となり、大坂夏の陣で手柄を立て15万石に加増され、姫路へ移封されました。その後は松平家が代々の藩主となり、以来紆余曲折はあったものの松平姓の藩主が幕末まで治めています。幕末期の藩主は松平定敏、尾張藩主徳川慶勝や会津藩主松平容保などの弟にあたり、京都所司代に任命され、一橋慶喜や会津藩と協力して京都の治安維持に勤めました。本年の大河ドラマにも登場しています。ところが事態は急転し、ここから桑名藩の悲劇がはじまったのです。その激変の大変さは涙なしでは語れないほどですが、杉本先生にわかりやすくお話いただき、桑名藩の悔しさや無念を偲びましょう。

日時 10月26日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

秋の星見と生命の起源

講師 小林 修二 名古屋科学館学芸課学芸係長

今年の秋の星空は、ベガス座の秋の四辺形を中心とするちょっと落ち着いた星空に、土星と木星が対になって、きらびやかなアクセントを加えてくれます。静かな夜空を眺めていると「私たち生命は宇宙のどこからやってきたのか?」なんて考えることも。最近の小惑星探査機の観測結果などから、生命の起源を紐解いてみましょう。

日時 11月9日(火) 18:30~20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(お菓子付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

観音巡礼の魅力～もう一つのお伊勢参りを巡ってみよう～

講師 木造 隆誠 龍池山松尾観音寺住職・千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

千種先生の伊勢西国三十三所観音巡礼も半分ほどきました。そこで今回は観音巡礼の仕掛人の一人、伊勢松尾観音の木造住職とお二人で、観音様のことをじっくりと語っていただく機会を設けました。そもそも観音様とはどのような仏様なのでしょう。もの本によりますと観音の総本家ともいべき聖観音、十種の誓願をもつ十一面観音、千本の手にそれぞれひとつづつ眼がある千手観音はよくご存じですね。他に如意輪観音、不空絹索観音、馬頭観音などがいらっしゃいます。では観音巡礼をするとういう御利益があるのか、またほかの巡礼とどこが違うのか興味が尽きませんね。

日時 11月15日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 1,300円 ビジター 1,800円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

日本書紀 その3

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

日本書紀は全30巻にも及ぶ大歴史書です。天地開闢から持統天皇までを扱った漢文で記されています。古事記が文学的なものである一方、日本書紀は日本の正史として年代を追って書いています。したがってあまり面白みはないようです。しかし正史としての地位は高く、一時、古事記は偽書とまでいわれ、片隅に追いやられていたほどです。その真価をみいだしたのは本居宣長でした。しかし神話満載の古事記は戦後は皇国史観批判の嵐を浴び冷遇されましたが、1990年代ころから再び脚光を浴びるようになりました。反対に日本書紀の方の地位は下落していききました。世の中の趨勢によって上がったり下がったり、この2書は時代に翻弄されてきた歴史書といえましょう。前回に引き続き日本書紀についての興味あるお話です。

日時 11月16日(火) 18:30~20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

冬を彩るハンギングバスケット

講師 山路 元彦 ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

ハンギングバスケットとは植物を植えて吊り下げたり、掛けたりできる花鉢のことで、ガーデンスペースが限られている場合などは空間を有効利用して楽しむことができます。徐々に寒さが増し日暮れも早く寂しさを感じるこの季節、色とりどりなお花でハンギングバスケットを作って元気をもらいませんか。ビオラ、パンジー、スイートアリッサム、パコパなど、開花時期が長い花達を使って春まで楽しめます。特にビオラ、パンジーは、花柄をこまめに摘むなど丁寧に育てあげると、冬の間もぐんぐんと育ち、それにこたえるように綺麗な花をどんどん咲かしてくれます。クリスマスやお正月などのイベントの多いこの時期も華やかに彩ってくれるでしょう。一度ハンギングバスケットを作ってみるとその楽しさとかわいい出来栄に大満足です。(材料の内容は変更する場合があります。園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください) ※材料準備の都合により、11/7に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 11月17日(水) 13:30~15:00 参加費 会員 4,400円 ビジター 4,900円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定 (ハンギングバスケット用の容器・スポンジをお持ちの方は参加費が800円、また容器のみをお持ちの方は500円安くなります)

楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずかに17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた和歌に始まり連歌、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず五・七・五になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてくださいます。

期日 9月29日(水)・10月27日(水)・11月24日(水) 時間 各回10:00~12:00 定員 20名
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円